

感染症発生動向調査委員会報告 3月

今月のトピックス

麻疹は2008年1月から全数把握疾患となりました。市内ではすでに700例以上の報告があり、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中。

インフルエンザは終息傾向。

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:84か所、内科定点:55か所、眼科定点:15か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計183か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計139定点から報告されます。

平成20年2月18日から平成20年3月23日まで(平成20年第8週から第12週まで。ただし、性感染症については平成20年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成20年 週 - 月日対照表

| | |
|------|-----------|
| 第8週 | 2月18~24日 |
| 第9週 | 2月25~3月2日 |
| 第10週 | 3月3~9日 |
| 第11週 | 3月10~16日 |
| 第12週 | 3月17~23日 |

全数把握の対象

<麻疹>

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第12週(3/17~23)までの報告数は703例で、全国の報告数4662の15%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では10代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。2012年麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳~高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者には、春休みのうちに接種を受けてもらい、新学期に備えることが重要です。

横浜市の詳細については、「麻疹(はしか)の流行について(4)」

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf をご覧ください。

(日本は、2008年~2012年の5年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底。

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢への定期接種を実施。

<レジオネラ症>

横浜市では、1月に3例、2月に3例、3月に2例と、すでに8例の報告があり、このうち4例が、保土ヶ谷区内の温泉施設の利用者でした。昨年は28例とかなり多い報告がありましたが、1~3月は1例でした。全国では、第12週までの累計が172例となっています。

循環式浴槽やジャグジーを持つ温泉施設などをよく利用している異型肺炎患者の場合には、レジオネラ症の検索が重要と考えられます。

なお、衛生研究所と区福祉保健センターでは、原因究明と感染拡大の防止を目的に喀痰検査や施設調査、遺伝子検査を行っています。

その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu

定点把握の対象

<インフルエンザ>

今シーズンは、流行開始が例年に比べ非常に早かったものの、ピークは小さく、第6週以後減少が続き、第12週(3/17~3/23)の患者定点医療機関からの患者報告数は250人、定点あたり報告数は2.23で、終息傾向と考えられます。川崎市は2.19、神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.80と、どちらも横浜市より低い値でした。

全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加してきました。また、2008年に入ってから、A香港型(AH3)が5例、B型が4例分離されています。

最新の情報については、

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf をご覧ください。

第10週の検体のうち、同一家族の3例からタミフル耐性ウイルス(Aソ連型)が分離されました。いずれも成人で、発症経過から家族内感染と考えられます。タミフル耐性株の流行を防ぐためには、症状が改善しても、タミフル内服中(一般的には5日間)は、会社や学校を休む必要があります。詳細は

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf をご覧ください。

<感染性胃腸炎>

年末にかけて多く報告され、1月以降は横ばいが続いていましたが、第8週からは増加し、第11週は定点あたり13.56と過去5年間と比べて最も高い値になりました。第12週は10.65と減少しましたが、川崎市は16.00、神奈川県(横浜、川崎を除く)は12.61と、どちらも横浜市より高くなっていますし、今後の動向には注意が必要です。ノロウイルス感染症だけでなく、ロタウイルス感染症も見られています。ロタウイルス感染症は、乳幼児に多く、発熱を伴い、けいれんなど重症になる場合があります。

病院、施設、学校等における集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

<RSウイルス感染症>

例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今シーズンは、インフルエンザの流行がかなり早く始まりましたが、RSウイルス感染症は、12月に多く報告されました。1月に入ってから報告が続きましたが、第7週以降1人か2人の報告となり、第12週は0人でした。

病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12月に10例、1月に5例、2月に8例が、PCR法で確認されましたが、3月は検出されませんでした。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第2週以降増加傾向が続き、第11週は定点あたり2.63と、この時期としては今年の第10週の2.68に次いで高い値になりました。第12週は2.15と少し下がりましたが、依然として過去に比べ高い値になっています。瀬谷(9.0)、磯子(6.0)、都筑(4.3)で、警報開始レベルの4を超えています。川崎市は2.19、神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.01と、どちらも横浜と同様多くなっているため、今後の動向に注意が必要です。

<マイコプラズマ肺炎>

3か所の基幹定点医療機関からの報告に基づいているため、総数で比較しました。平成18年は年間92人とかなり多い報告がありましたが、昨年は37人でした。平成20年に入り、報告が目立ち、特に第9、10、11週は8人ずつの報告が続きました。第12週までの累計は36人と、昨年の同時期の3倍でした。

全国でも、昨年に続き、今年もかなり多く報告されており、今後の動向に注意が必要です。

平成20年 週 - 月日対照表

| | |
|------|-----------|
| 第8週 | 2月18~24日 |
| 第9週 | 2月25~3月2日 |
| 第10週 | 3月3~9日 |
| 第11週 | 3月10~16日 |
| 第12週 | 3月17~23日 |

< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

2 月は、1 月に比べて、男性の性器クラミジア感染症が減少した以外は、増加しています。また、15~19 歳の若年については、男性は報告がありませんでしたが、女性は、性器クラミジア感染症で 4 人、性器ヘルペス感染症で 1 人、尖圭コンジローマで 1 人と、目立ちました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8 か所、インフルエンザ(内科)定点:5 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:3 か所、の計 17 か所を設定しています。検体採取は、小児科定点 8 か所を 2 グループに分け、4 か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

< ウイルス検査 >

2008 年 3 月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 39 件(鼻咽頭ぬぐい液 38 件、糞便 1 件)、内科定点 12 件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点 2 件(髄液)、眼科定点は 2 件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎 25 人、発疹 6 人、発熱のみ 5 人、胃腸炎 2 人、関節痛 1 人、内科定点は気道炎 7 人、関節・筋肉痛 3 人、胃腸炎 1 人、発熱および頭痛 1 人、基幹定点は脳炎・脳症疑い 1 人、無熱性けいれん群発 1 人、眼科定点は角結膜炎 2 人でした。

4 月 10 日現在、小児科定点の気道炎患者 3 人、発熱のみの患者 1 人からインフルエンザウイルス AH1 型、気道炎患者 1 人、発熱のみの患者 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、気道炎患者 1 人からインフルエンザウイルス B 型が分離されています。また、内科定点の気道炎患者 4 人、関節・筋肉痛の患者 1 人からインフルエンザウイルス AH1 型、気道炎患者 1 人、関節・筋肉痛の患者 1 人、発熱および頭痛の患者 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、気道炎患者 1 人からインフルエンザウイルス B 型が分離されています。

これ以外に、PCR 検査では、小児科定点の気道炎患者 8 人からヒトメタニューモウイルス、発疹患者 4 人、気道炎患者 3 人から麻疹ウイルス、気道炎患者 2 人と内科定点の気道炎患者 1 人から RS ウイルスの遺伝子が検出されています。RS ウイルスの遺伝子が検出された小児科定点の気道炎患者 2 人からはインフルエンザウイルス AH1 型と B 型が分離陽性でした。また、基幹定点の脳炎・脳症疑いの患者からヒトヘルペスウイルス 6 型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

< 細菌検査 >

3 月の感染性胃腸炎関係の受付は 6 菌株で毒素原性大腸菌が 1 件検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は 9 件で A 群溶血性レンサ球菌が 7 件から検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課 ウイルス担当 】